

地方都市における回遊を促進する街路づくりに関する研究

熊本大学大学院自然科学教育部 学生会員 ○高松悠馬 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

日本の地方都市における課題として都市の活気減少や回遊量の減少、地域コミュニティの弱体化等が挙げられる。これらを解決する策の1つとして、近年ではウォーカブルなまちづくりが促進されている。ウォーカブルなまちづくり¹⁾とは、車中心から人中心の空間へと転換し、まちの魅力向上や歩行者の安全度向上を図るものである。日本のウォーカブル推進都市²⁾には多くの地方都市が参画していることから、地方都市におけるウォーカブルなまちづくりの方向性を示す必要がある。

本研究の目的は、回遊を促進する街路づくりの構造を明らかにすることである。そこで、街路の現況整理を行った後、街路環境を平面的・立面的に分析し、回遊を促進する街路の要素を考察した。

2. 水辺都市における街路空間

本章では、対象地を選定した後、対象地の地勢や歴史といった地域特性を明らかにした。次に、現地調査を行い、回遊性能の観点から対象地の現況を整理した。

(1) 対象地選定・概要

本研究の対象地として、菊池川流域の主要都市である菊池市・山鹿市・玉名市の街路（以後、菊池市：御所通り、山鹿市：豊前街道、玉名市：裏川沿道）を選定した（図-1）。菊池市³⁾は菊池川上流部に位置する、人口47,568人（令和3年10月現在²⁾）の地方都市である。山鹿市³⁾は、菊池川中流部に位置する、人口50,560人（令和3年3月現在）の地方都市である。玉名市⁴⁾は、菊池川

下流部に位置する、人口64,890人（令和3年10月現在）の地方都市である。対象とする区域延長は、各850m、1000m、550mである（図-2）。

(2) 街路空間の現状整理

対象地の現況を整理するため、国土交通省が提供している「まちなかの居心地の良さを測る」指標⁵⁾を用いて現地調査を行った。山鹿市豊前街道は、ハード環境のすべての項目において比較的高い評価があり、空間の快適性・魅力に関しては、賑わいがある・仕事をする場として使えるという項目が低い、比較的高い傾向が見られた。また、Datewise Area Marketer⁶⁾というDXサービス（以後、Datawise）によると、2021年10月における滞在時間が0分～60分の来訪者数（延べ）は、47,211人であり、居住者と来街者の割合はほぼ等しく、生活道路としての機能と歴史的な観光地としての機能を有していると考えられる。

(3) 街路空間における魅力

現在の街路空間の魅力を調査するために、Datawiseのデータを分析した後、SNS分析から回遊者が写真を撮る場所を調査した。Datawiseによると、豊前街道では、主観光地の1つであるさくら湯と各店舗間の往来人数に差異はあるが、街路全体を通して、様々な店舗への往来が確認できた。

(4) 小括

2節・3節にて、街路の課題として歴史性の不足や景観のつながりが薄いことが挙げられた。

3. 街路空間からみた水辺都市の変遷

本章では、水辺都市の変遷を整理し、これまでの街路形成の経緯を分析した。また、土地利用を調査し、地図に落とし込み、分析した。

(1) 菊池市御所通りの変遷⁷⁾

肥後の豪族菊池氏の本城守山城があった場所で、一時は西の京都と呼ばれるほど栄えていた。また、御所通りは菊池一族によって整備され、城下町として栄えた菊池市限府の中心の通りであった。加藤清正によって熊本の中心が現在の熊本市内に遷されたあとも、その歴史的背景や日田方面への交通の要衝としての地理

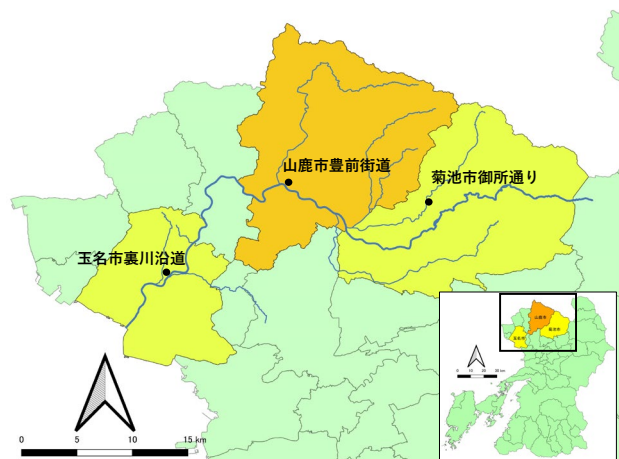


図-1 対象地の所在地

的条件もあって、在町として経済活動が許され、門前町、宿場町、商人町などの性格を併せ持った県北有数の拠点都市として近現代まで繁栄を続けてきた。

(2) 山鹿市豊前街道の変遷⁸⁾

近世、山鹿の中心地は「湯町」と呼ばれていた。現在、街道沿いに残っている歴史的建造物に瓦葺や柱を塗り込めた土蔵造が多く見られるのは、延焼防止のため藩が推奨した結果と考えられる。

1993 年熊本県景観条例による「景観形成地域」の指定以後、町並みの価値を再評価しようとする機運が高まり、住民自ら商店街復興策のひとつとして徐々に外観の修復・修景に力を入れ始め、1995 年から山鹿市独自の助成制度を用意してこの動きを支援した。「都市景観形成基本計画」を策定した後、山鹿市ではまちなみ整備事業が実施され、その結果が今日の豊前街道沿いの町並みを生かしたまちづくりへと発展している(図-2)。

(3) 玉名市裏川沿道の変遷⁹⁾

玉名市は菊池川との結びつきが古く、港町として発達した。裏川沿道が位置する高瀬地区は、菊池氏が勢力を振るった南北朝時代から菊池川の水運を利用した港町、商人の町として賑わった。昔からある酢屋・味噌屋・高瀬飴屋等、商店が立ち並ぶ通りに歴史の重みが残る。



図-2 山鹿市豊前街道の土地利用



写真-1 山鹿市豊前街道の代表景

4. 回遊を促進する街路環境の分析

本章では、街路の空間分析を行い、回遊を促進する要素を考察した。具体的には、代表景観から回遊を誘因する景観分析を行い、脇道の誘因要素の分析から、まち全体の回遊可能性を考察した。

(1) 調査手法

初めに、景観構成要素を立面的に測るために、街路の代表景を抽出し、分析した。さらに、街路からの脇道誘因要素を調査し、まち全体とのつながりを測った。

(2) 調査結果

a) 代表景観からみた回遊を促進する要素 (写真-1)

豊前街道の景観構成要素は、歴史を活かした建物意匠や暖簾、統一された看板、道路の舗装等があり、特に、古くからある酒造付近では、菊池川沿岸まで、歴史を感じられる景観を望むことができる。

b) 脇道の誘因要素

本項では、各街路の脇道を抽出し、歴史景・自然景・生活景・その他に分類した。その後、誘因要素を分析し、まち全体への回遊可能性を考察した。

5. おわりに

2 章では、街路空間の現況調査を行い、街路の基礎整理や回遊性能の課題を明らかにした。3 章では、街路の変遷から街路形成の経緯を分析し、4 章では、景観分析から回遊を促進する要素を分析した。今後の展望として、3 章 4 章の分析をさらに詳細化し、地方都市における回遊を促進する街路づくりの構造を考察する予定である。

参考文献

- 1) 国土交通省：「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォークアブルなまちなかの形成～
- 2) 菊池市 HP
- 3) 山鹿市 HP
- 4) 玉名市 HP
- 5) 国土交通省：まちなかの居心地の良さを測る指標 (案)
- 6) Datawise : Area Marketer
- 7) へそまがり署：あなたと歩きたくなる菊池のまち～あの素晴らしい御所通りをもう一度～
- 8) 山鹿市：山鹿市歴史的風致維持向上計画 (第 2 期)，2021 年 3 月。
- 9) 玉名市：高瀬の街並み